

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 33	福山市立柳津小学校
最終更新日		2024 年（令和 6 年）4 月 1 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
・評価はすべての学校で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。 ・評価指標は短期では評価しにくい。評価項目の検討が必要。 ・学校情報の外部への発信は実態がよくわからず評価しにくい。 ・関係者評価制度の見直しを希望する。	・全国学力調査では、全国平均を下回っているが前年度より向上してきている。低学力の子どもが多く、学力定着に課題がある。 ・同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。 ・挨拶ができる子どもが増えてきた。校区で取組んだ成果が見えてきた。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
		中学校区として統一した取組等	・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。

III 自 校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する	めざす子ども像	・自ら考え学ぶ意欲的な生徒 ・主体的に活動し、自ら成長する生徒 ・豊かな心を持ち、地域から応援される生徒
学校教育目標	研究	テーマ 児童が表現したり自ら挑戦したりする楽しさを実感できる授業の推進 ～学びを「おもしろい」と感じる児童の育成～
進んで学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成 ～夢はでかく 根は深く～		
現 状	主内容等	国語・算数・特別活動
〈児童生徒〉 ○自分の好きなことや得意なことを発表する場を意図的に設けることで、児童が自分の思いや考えを言葉で伝えようとする意欲が高まっている。 ●児童が、自分たちで対話を通してよりよい学級をつくろうとしたり、学校生活をよりよくしようとしたりする主体性は十分には育っていない。	めざす授業の姿	【国語】語彙の質と量を豊かにする授業 ・一つ一つの言葉にこだわる。 ・全体と部分を行き来しながら、関係を捉える。 ・学んだことをもとに表現する活動。
〈授業〉 ○課題やめあてを明確に示した授業づくりと基礎学力定着に向けた取組の結果、児童は「わかった」「できた」が実感できるようになってきている。 ○自らの学びをふり返ることで、次の学習への意欲や目標を持つことのできる児童が増えた。 ●「知識・技能」の定着が十分できていない児童に対する手厚い手立てが必要である。 ●語彙力や読み取る力が低いことに課題がある。 ●相手に分かりやすいように根拠を示して自分の考えを表現することや、既習事項をもとに新しい考え方を導く力をつける必要がある。		【算数】数や数に関する言葉の意味への理解を深める授業 ・算数的な活動を通して、意味を理解する。 ・既習事項や、生活場面と結び付けて考える。 【特別活動】対話をもとにしたよりよい集団づくり ・多様な考えや価値観を共有し認め合える活動。【人間関係形成】 ・話し合いをもとにした自治的活動。【社会参画】 ・振り返りを生かして、新たな議題の提案や課題解決に向けて行動しようとする力の育成。【自己実現】

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
3	自ら考え学ぶ 授業づくりを 進めて、学力 を向上させる。	★	新規	児童が表現したり 自ら挑戦したり する楽しさを実感 できる授業 づくりを行う。	①児童が読んで内容を 理解できるようになる ように語彙の質と 量が豊かになる教材 研究をする。 ②次の学びや生活場面 につなげた振り返り をする。	①教材研究が児童の主体的 な読みにつながったと感じ る職員。 (アンケート：80%以上) ②次の学びや生活場面に つなげた振り返りができた か。 (算数科学期末振り返りシート： 80%以上)								
3	児童・生徒の 自己肯定感を 高める。	★	新規	話し合い活動を通 して、生活上の 諸課題を見出し たり、解決に向け て実践したりする ことができる。	①話し合い活動の 進め方や意思表示 の方法を提示する。 ②実践のふり返り をおこない、次の課 題解決に結び付け る。	自分の考えをクラスの友達 に伝えることができる。 クラスの友達は自分の考え を分かってくれる。 学級会において、自分の思 いや考えを持ち、話し合い 活動に参加している。 (児童アンケート80%以上)								
3	教職員の資 質・能力の向 上を図る。		新規	教職員が授業づ くりなど学校内 での活動につい て、失敗を恐れず に挑戦することが できる環境づ くりを行う。	①教職員が教材研究 を深めることで、自信 を持って授業に臨め る研修を行う。 ②教職員はお互いの 良い所を大切に、行 事や分掌の担当者 を中心に主体的に業 務へ取り組む。	①仕事にやりがいを感じ ている教職員が100% ②授業づくりなど学校内 の活動について、失敗を恐 れずに挑戦することができ ている教職員100%								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。